

## はじめに

### 昔からずっと、わたしたちの身近にある木工

みなさんの身のまわりには、たくさんの木工があります。どのようなものがあるか確認してみましょう。家の中なら、テーブルやいす、本を入れるたな、食事で使うはし、汗わんだなど。学校なら、机といす、えんぴつ、とび箱やピアノなど。ほかにもたくさんあるはずです。知らず知らずのうちに、みなさんは木工とふれあっているのです。そして、もっとも昔から、日本人は木工を使ってきました。古くは縄文時代より前の旧石器時代に木を石などでうすく割って何かに使っていたようです。建物がほとんどなく、今よりももっと木が多かったはずですから、折ったりけずったりしやすい木は、くらしに取り入れやすい道具となったのでしょう。何万年も、人びとは木工と親しんできたのですね。

現在は、昔ながらの技を脈々と受けつぎ進化させてきた木工と、新しくコンピュータや機械を活用した木工の両方があります。どちらもすばらしく、目的や用途に合わせて選ぶことができるようになりました。とくに、昔ながらの木工は、伝統を生かしつつ今の生活に合わせた作品づくりをしながら、後世へと技をつないでいくことが求められています。新しい技術は、これからどのような進化をしていくのか楽しみです。

この本では、種類や歴史、木工の技など、さまざまな角度から木工を紹介しています。知れば知るほど日本文化の奥深さを感じ、木工のすばらしさがわかってくることでしょう。



▲『花洛土農工画』一寿喜国自画（1849年）  
羽子板をつくっている様子の浮世絵です。部屋の中には羽子板をはじめ、木工作品がたくさんあります。  
机、たな、火ばち、千セル、右側のかべには和楽器の三味線が掛かっています。

## もくじ

### 木工の世界へようこそ・・・・・・4

- 活躍シーン別の木工いろいろ……………4
- 木工技術のおもな種類……………6
- 各地域の木工いろいろ……………8



### 木工の技を見てみよう・・・・・・10

- 指物のスゴ技……………10
- ひき物のスゴ技……………14
- ほり物のスゴ技……………16
- 木工工場のスゴ技……………18



### 昔の木の道具いろいろ・・・・・・20

### 新しい木工・・・・・・22

### はしづくりにチャレンジ！・・・・・・24



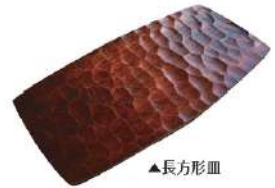
### もっと木工を知ろう・・・・・・26

- 木工の歴史……………26
- 木工の材料……………30
- 木工の仕事をするには……………31



# 各地域の木工いろいろ

木工品は生活に必要な不可欠な物なので、各地域で発展してきました。ここではその中の一部を紹介していきます。みなさんの住んでいる地域の木工も調べてみましょう。



▲長方形皿



裏面のけすり方にも工夫。

## 島根県 くり物木工

自然豊かな地域で、木と対話するようにつくられるくり物木工が島根ブランドの伝統工芸品となっています。昔ながらの道具を使い、そのけずった跡が模様の一部になります。

## 福岡県 大川家具

大川市は、船大工や農業用の水車づくりの産地として木工技術がみがかれてきた地域です。江戸時代後期から箱物づくりがさかんになり、明治時代中期には家具の町として知られ、大正時代から機械化が進んでいき、今でも木工・家具づくりがさかんです。



▲○○○○○



## 徳島県 磨木仏壇

その昔、中国（清）から輸入された、とても固い高級木材を磨木と呼んでいました。この磨木を使った仏壇で、今では木目の美しい国産木材も使います。

### ▲仏壇

磨木材は半葉箱と染櫃が使われています。



▲衣装たんす

## 新潟県 加茂絹たんす

絹たんすは、自然素材でつくられてきた衣類を、湿度や細菌、害虫などの被害から守る役割があるとされています。加茂地域は200年の歴史のある産地です。



▲瑞泉寺本堂の唐狭間廻廊欄干彫刻の表面に塗金がはってあります。

## 富山県 井波彫刻

江戸中頃に瑞泉寺（富山県）の本堂を再建するときに、京都から呼んだ職人たちが地元の大工たちに教えたことがはじまりとされています。

▶置き物



## 岐阜県 一位一刀彫

飛騨で育った樹齢400～500年のイチイの木を、ノミだけでほってつくります。仏像や装飾品（根付など）、茶道具などがつくられます。



▲とかしくし

## 大阪府 箱泉くし

江戸時代には全国一のつけくしの産地になりました。1本1本の細いくしの歯を、みがいてすべりのよくしに仕上げます。



機械でくしの歯の切れ目を入れてから、手作業で1本ずつ先が細いくさび形に仕上げます。歯の曲りや太さ、くしづくりにとっても重要な工程です。

## 秋田県 秋田杉たるおけ

秋田杉を使った、たが物です。ふたがあるものをたる、ないものをおけといいます。秋田杉の香りと高い吸水性により、酒やつけ物づくりにむいていて、郷土の味を守っています。



▲おけ



▲茶筒などかば細工いろいろ

## かば細工

ヤマザクラ類の樹皮を使った木工品で、その独特の模様が特徴です。茶筒や箱類、茶たぐなどがつくられています。

## 北海道 二風谷イタ

カツラやクルミなど地域の木材に、アイヌ文化の意匠の彫刻をほどこした平たいおぼんです。皿のように使っていたともいわれています。



▲二風谷イタ

明治の名工員澤村トレントウ制作のイタをみまごの壺が複製。

## 宮城県 仙台たんす

木目が美しく見える木地呂めりによる透明感のある紅色の表面に、鉄製の黒い金具が特徴的です。本体の箱物、漆めり、金具づくりの3工程を分業で行います。



▲小たんす

## 栃木県 鹿沼組子

木を細い棒状に切り、組み合わせる幾何学的な模様をつくります。障子やらん間などの建具づくりで発展しましたが、今ではコースターなどの小物類もつくられています。



▲コースター



▲ついで

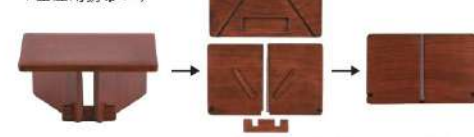
## 東京都 江戸指物

クギを使わず、木と木を組み合わせるのが指物です。江戸指物はおもに武家や商人、歌舞伎用（梨園指物）につくられ、シンプルでありながら丈夫な仕上がりになっているのが特徴です。



▲たんす

### ▼正座用携帯いす



歌舞伎の楽屋番が使う正座用のいすで、分解し、携帯用に組み立てて置きやすいくさび状になります。

## 静岡県 静岡ひき物

器やおもちゃなどの身のまわりの道具類のほか、引き出しのつまみ、テーブルの脚といった家具の一部をひき物でつくっています。



▲輪投げ



▲弁当箱

## 井筒メンバ

メンバとは弁当や綿菓を入れる容器です。ヒノキをうすくずり出した曲物で、漆をぬって丈夫に仕上げます。

## 神奈川県 箱根器木細工

複数の木材のそれぞれの色を生かして組み合わせる模様が特徴です。そのままけずって形をつくり、うすくずって板に貼ったりしてつくります。



▲箱



▲器

# 木工の技を見てみよう

えどさしもの  
江戸指物で見る

## 指物のスゴ技

板を組み合わせてつくる家具・道具類の指物のうち、江戸指物のスゴ技を、伝統工芸師の渡邊彰さんに教えてもらいました。外見からではわからない技術が詰まっています。

## 小だんすで見る 江戸指物のスゴ技

昔ながらの技術を生かしながら、今の生活にもなじみやすいデザインでつくられた家具です。この小さな箱に、指物師のどんな技がかかれているのか、見ていきましょう。

### ●銘木材で美しく



引き出しの表面はタモ、箱部分はキリ、持ち手はクワ。さらにキハダとツギの5種類の木材を使っているよ!

江戸指物は使いやすさはもちろんのこと、美しさも求められてきました。表面には銘木(30ページ参照)と呼ばれる品質・色・つや・木目などがすぐれている木材が使われることが多くあります。異素材の木材の色や模様を組み合わせが美しいデザインとなります。

### ●くぎを使わずに 組み手で指し合わせる

組み合わせる板の接点に凹凸の切り込みを入れた組み手を指し合わせる(組み合わせる)ことで、くぎを使わずにしっかりと組み立てることができます。くぎを使わないことで木材を傷めず、重さを抑えることができ、さらに点でなく面で接合するおかげで丈夫なつくりになります。



### ●表からは組み手を見せない仕上げ

パッと表面から見ると、組み合わせている部分は線に見え、ボンドでくっつけているように見えますが、その内側には「ほぞ」と呼ばれる凹凸が切り込まれ、2枚の板がぴったり90度で組み合わさるようにつくられています。組み手のひとつ「留形隠蔽組接」の技は13ページを見てください。



技術をかくす江戸の粋!



### ●引き出しはぴったりと

引き出しがいくつかある場合、ひとつを引き出してから、ゆっくりしようと、ほかの引き出しが空気の圧力で押されて出てきます。これは、引き出しの箱がちょうどぴったりとつくられているという証でもあります。ゆるくてもきつくてもこの現象は起きません。

### ●職人の遊び心も

大切なものを守っていただくために、注文者にはわからないからくりをつくる場合があります。写真のからくりは、引き出しを全部ぬいて初めて見られるもので、左側の引き出しのカギになっています。ほかにもかくし引き出し(引き出しを外すと奥に引き出しがある形)など、職人の遊び心が見られるからくりがあります。

### ●軽くて丈夫

表面には銘木を用いますが、内側や裏面にはスギやキリなどの軽く湿気を吸う性質がある、比較的安い木材を使います。そうすることで、製品の重さや価格を抑えることができ、さらに、ちがう素材を組み合わせて使うことで、自然素材だからこそ起こるゆがみなどを吸収し合い、抑えることができるのです。

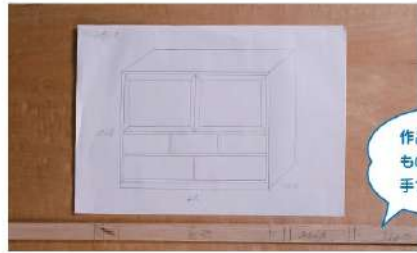
▲上の板の端はほぞをつくり込んで木工技術の「留形」を取り入れています。後ろに立っているのはおなじみの銘木材のストックです。

# 江戸指物づくりの流れ

前のページで紹介した小だんすをつくる流れを紹介し、シンプルで繊細に見えるけれども、強く丈夫な家具ができあがるには、どのような技術が使われているのか、見ていきましょう。

## 1 図面・ものさしづくり

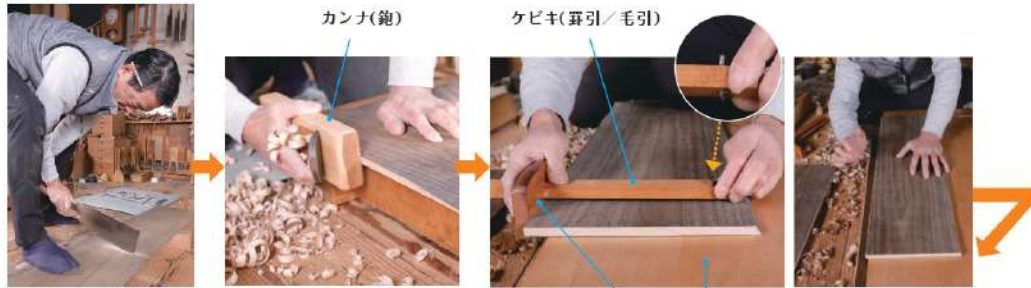
まずはじめに、縮小図面をつくります。どのような使用方をするのかを想定し、形、サイズ、使う木材なども決めていきます。図面ができたら、実際の大きさに合わせたものさしをつくります。木材を切るときに目もりを数えるよりもかんたんに正確に測ることができます。



作品ごとにものさしを手づくりするよ!

## 2 木取り・木けずり

木材は事前に購入して、しっかり乾燥させておいたものから選びます。木取りとは、どの部分にどの板を使うかを決め、部位ごとのサイズを切り出すことです。木けずりは、工房に置いてあった板のゆがみや変色をなおすために、表面をけずる作業のことで、



**長さを切る**  
ものさしでサイズを測り、長さを切ります。板の繊維方向に沿って切る場合と、垂直に切る場合ではノコギリの刃を使い分けます。

**幅の一方をけずる**  
幅を切り出すには、まず一方をまっすぐに整えます。カンナを使い、まっすぐにけずります。

**幅を決める**  
切り出したい幅にケビキの定規板をずらして固定し、整えた一方にあって、手前に引きながらケビキ刃ですじをつけます。すじがついたら、板を回してすじを右側にし、作業台(あて板)より少し出る位置に調整して、手のひらのつけ根で勢よくたたいて割り落とします。



**表面をけずる**  
カンナで表面をけずり、変色部分を落とし、ゆがみを平らにします。手でなでたり、立てて見たりしながら確認します。

**はぎ合わせ**  
板の幅がたりない場合は、2枚以上を接着剤でつなげて(はぎ合わせ)使います。

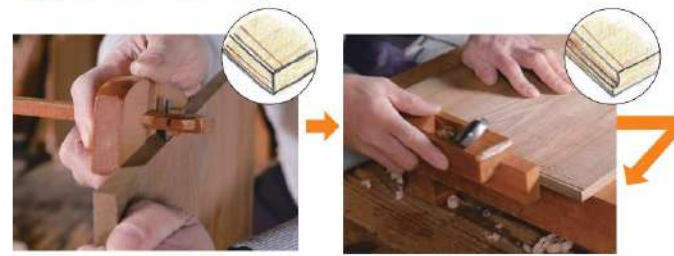
**けずる**  
はぎ合わせの場合は、つなぎ目がなめらかなるように、カンナでけずります。



ゆがみがなく、手ざわりと見た目を確認

## 3 組み手加工

2枚以上の板を組み合わせる数多くある組み手のうち、よく使われる留形総蟻組接を紹介しします。

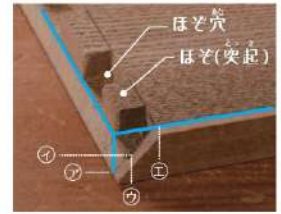


**ケビキですじを入れる**  
板の切り口に2本(右図の①②)、裏側の端に2本(右図の③④)、ケビキで筋を入れます。

**ほぞを内側にする**  
組み手を内側にするための幅を、端をけずる専用のカンナでけずります(右図の①と②をつないだ部分)。

### ほぞの仕組み

2枚の板に、それぞれに突起(ほぞ)と、ほぞを押し込むためのほぞ穴をたがいがいいにつくり、押し合わせて組み立てます。



- ①角は弱いので少し残す
- ②組み手を内側にするための幅
- ③組み手を内側にするための幅
- ④ほぞの内側の線



**しるしをつけて切り込み**  
「ほぞ」の位置に印をつけて、ノコギリで切り込みを入れます。ノミでけずりやすいようにするためです。



ほぞは江戸指物の命です!

### のみでほぞをつくる

ノミの刃をけずる部分にあてて、カナヅチでたたいて少しずつけずります。けずりすぎてしまうと修正ににくいので、慎重にけずっていくのです。



**両端を45度にけずる**  
すじをつけた①と②の間を、専用の作業台で45度にけずります。

## 4 組み立て

各部材の組み手をつくったら、組み立ててみて、ほぞが合うかを確認します。ぴったり合うまで何度か調整します。



ぴったり合うまで少しずつ調整するよ!

## 5 引き出し・扉づくり

引き出しや扉、からくりなどをつくります。その間、⑤の外枠はばらして2~3か月おきます。そうすると自然素材のため木が少し動くので、再度調整します。

## 6 仕上げ

至と呼ばれる独特の模様のある木材の表面をトクサでみがけます。トクサは水に浸したものをを使い、軽くさすってつやを出します。必要に応じて、うるしなどをぬって仕上げます(別業者)。



▲みがきに使うトクサ

# 昔の木の道具いろいろ

プラスチックやガラス、金属などの素材が高価な時代には、日本各地に生えている身近な木がさまざまな道具に加工されてきました。今の素材とくらべながら見ていきましょう。

## 【仕事の道具】

### 運ぶ

穀物やまきなど、重いものを背負って運ぶための道具です。地域により、背板、背負子、やせ馬など呼びます。今でも似た形でつくられています。アルミやナイロン素材などでもっと軽くなっています。



背板▶

### 宣伝

店頭の看板は、とても大切な宣伝の役割のひとつになっていました。木の板をほってつくられるものがほとんどで、さまざまな工夫がされています。写真は薬屋さんの看板です。



▲薬種尚看板

### 計量

重さや容積を量るにはますを、重さを量るには秤ばかりをつけていました。今の計量道具とは、素材だけでなく、量る単位もちがいます。穀物や液体の量を量るのに使われました。指物の棧が使われています。



▲計ます

### 計算

電卓がない時代は、そろばんがおもな計算の道具でした。玉や棒は木製で、玉を通す軸だけ竹が使われています。パチパチと心地よい音がするのも特徴的です。



▲そろばん

### 糸づくり

糸や布をつくる道具は、ほとんどが木製でした。写真はカイコや、綿花などのわたをより合わせて、糸をつくる糸車です。日本だけでなく、世界でも同じような道具が使われています。



▲糸車

## 【くらしの道具】

### 食事

江戸時代前期まではやきものの食器は高価なため、一般家庭にはまだまだ手の届かないものでした。木製のおわんが日常づかいの食器だったのです。写真のような漆ぬりの食器も高価で、身分の高い人の食器です。また、行業に持つていく弁当箱もほとんど木製でした。



▲おわん (東海道五十三次・権子・菅節北茶 画) ところ汁を、木製と思われのおわんで食べている様子。こはんの人った黒いおひつも木製です。



▲さげ重箱

### 調理

調理道具で火に直接あたる部分は金属製でしたが、ふたやおたま、しゃもじなどは木製でした。写真のこぶちょうしは、木のこぶの部分の丸みを利用した汁をすくうための道具です。電気のない時代の冷蔵庫は、木製の箱の上の部分に氷を入れ、その下の部分を冷やす仕組みでした。



▲木製冷蔵庫



▲こぶちょうし たくさん人が集まったときの食事で、汁掃を配るのに使われた石川縣の民具です。

### 水入れ

バケツ代わりに使われたおけです。井戸から水をくんで運んだり、掃除に使ったり、生活の中のさまざまなシーンで活躍しました。



▲おけ

井戸の水をくむのにも使ったよ!

### おまる



▲おまる

移動できる便器のことで、たが物でつくられていました。小さな子どもや、動くのがたいへんな病人や高齢者が使います。今ではプラスチック製が一般的で、軽く衛生的になっています。